

大達原の手掘り隧道（秩父市）

かわはく No.72

CONTENTS

開催予告：冬期企画展「埼玉県の災害伝承碑」	2
開催報告：秋期企画展「秩父を散歩しませんか？～神社仏閣に地形と石を訪ねる～」	3
源流探訪～川の始まりはどこ？～	4
学芸員コラム：不思議な「すみか」をつくる生きもの	6
学芸員コラム：「堤内地」と「堤外地」	7
開催報告：かわはく体験教室「ジュズダムであそぼう」	7
イベント情報コーナー 12・1・2・3月	8



開催予告

冬期企画展

「埼玉県の災害伝承碑」

開催期間:2022年1月15日(土)～3月6日(日)

恐らく誰でも、石に文字が刻まれている「石碑」を目にしたことはあるのではないのでしょうか。石碑には、歌碑、句碑、記念碑、慰霊碑、墓碑などがあります。こういった石碑の中には、過去の災害のことを伝える「災害伝承碑」も含まれます。

過去の出来事を今に伝えるものとしてまず思い浮かぶのは紙に書かれている「古文書」と呼ばれる資料かも知れません。紙は、特に江戸時代以降は比較的簡単に多くのことを記すことができる便利な媒体です。しかし、紙に書かれたものは、特定の人に向けて書かれていたり、全ての人が簡単に目にするのができなかつたり、火災や害虫被害によって失われる、といった側面もあります。一方、石碑は訪れれば誰でも目にするのができ、消失しにくいものです。その反面、石に刻むことは紙に文字を書くよりもずっと多くの時間やお金など労力のかかることです。それでも石碑を建てるのですから“後世に伝える”という意思が強いのではないのでしょうか。しかしながら、その石碑も、長い年月のうちに人々に忘れられ草に埋もれることもあれば、表面が風雨で傷むこともあります。“そこにある”ことを知らなければ会う機会もないかも知れません。また、近世～近代の碑文（石碑に刻まれた文章）は、現代の日本語とは異なり、理解し難いこともあります。しかし、災害を伝える伝承碑は、過去の災害を伝える歴史資料の一つであり、また災害を乗り越えてきた人々が後世に伝えようとする教訓でもあります。このような石碑に目をとめ、次の世代へ伝承していくことは、今を生きる私たちの役割といえるのではないのでしょうか。

今回の展示は、埼玉県内外で災害伝承碑の調査をされた高瀬正氏の協力を得て、その調査結果を中心に、埼玉県内に存在する災害伝承碑を紹介するものです。また近年の頻発する自然災害を背景に、国土地理院では2019年6月から自然災害伝承碑のデータを公開し、地形図上に自然災害伝承碑のマークが見られるようになりました。高瀬氏の調査と国土地理院の自然災害伝承碑に加え、入手できる情報から

災害伝承碑のリストと位置図の作成を試みっていますが、近年所在を忘れられており、リストにはない石碑もあるかもしれません。この展示をきっかけに災害伝承碑について住民の方の情報が寄せられ、情報がさらに充実することも期待しています。

国土地理院の「自然災害伝承碑」は洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害、その他（台風や雪崩など）の災害を対象としています。今回の展示では、洪水、地震、火山災害に加え、飢饉、旱魃、疫病も対象として、いずれも災害年がほぼ特定できるものを取り上げます。災害伝承碑の内容は、災害の様相を後世に教訓として伝えるもの（水位や被害の大きさ）、被災者を供養するもの、復興・救済に努力した偉人の顕彰などです。

今回の展示では、災害伝承碑リストと位置図に加え、災害伝承碑のレプリカや拓本資料、災害伝承碑の写真や碑文の内容についての紹介、石碑が建立されるまでの過程、拓本の採り方などを予定しています。これらの資料や情報が、災害や災害の歴史を調べることに役立ち、自然災害について改めて考える契機となれば幸いです。（研究交流部 森圭子）



寛保2年の洪水碑（久喜市 鷲宮神社）



開催報告

秋期企画展 「秩父を散歩しませんか？ ～神社仏閣に地形と石を訪ねる～」

開催期間：令和3年9月25日(土)～11月23日(火・祝)

令和3年9月25日(土)から同年11月23日(火・祝)まで、秋期企画展「秩父を散歩しませんか？～神社仏閣に地形と石を訪ねる～」を開催しました。

本企画展では、「神社仏閣」と「地形」、「石」について、序章と第1部から第3部までの3部構成で展示しました。序章では「ジオパーク」や「秩父の神社仏閣」についておおまかに紹介し、第1部「地形のおもしろさ」と第3部「水と地形」では、神社仏閣で見られる特徴的な地形について写真やパネル、岩石標本を展示しました。第2部「石に願いをこめて」では、神社仏閣にある石仏や碑に使われた石材だけでなく、信仰の対象としての石も展示しました。

なかでも、900点以上もある札所26番円融寺からお借りした礫石経は、展示を見に来て下さった方が足を止めて見入っていました。

現在(2021年11月時点)、円融寺は改修工事中なのですが、工事が始まる前の調査で、同寺の床下から見つかった礫石経をすべて展示しています。来春には元の場所に戻してしまうとのことで、本企画展が初公開かつ、円融寺の礫石経を見ることができる貴重な機会となりました。



札所26番円融寺床下の石組
(ここに礫石経が埋納されていた)



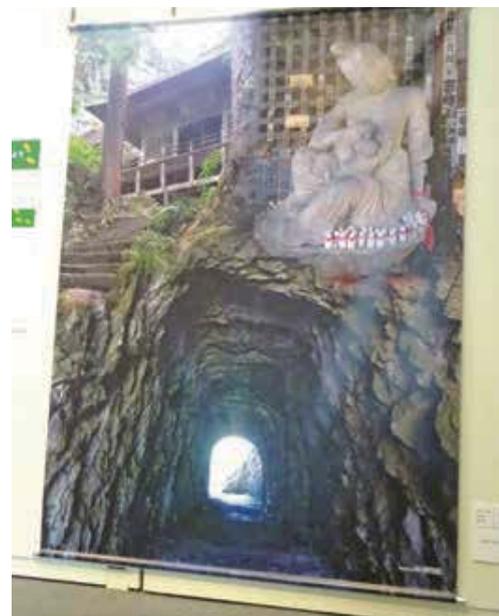
札所26番円融寺の礫石経 展示状況

今回の企画展では、自然科学としての岩石だけでなく、信仰の対象としての石を紹介することによって、幅広い層の方に見ていただけたと思います。

なにより、本企画展のコンセプトは「秩父を散歩しませんか？」なので、実際にみなさんの足で秩父をたずねてほしいと思っています。そして、秩父の神社仏閣を訪れた際には、足元にある石や地面、身近な自然にも思いを馳せていただけたら幸いです。

最後に、今回の企画展開催にあたり、神社仏閣をはじめ、博物館、専門家の方などたくさんの方にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

(研究交流部 室井美穂)



壁面に展示したタペストリー
右上：札所4番金昌寺 慈母観音
左上：札所32番法性寺観音堂
下：大達原の手掘り隧道



源流探訪 ～川の始まりはどこ？～

1 スロープ展「川の始まりはどこ？」

第1展示室の一角に「スロープ展示」と称しているコーナーがあります。ここで9月28日（火）から令和4年2月6日（日）まで、「川の始まりはどこ？」というミニ展示を開催中です。

川の源流（水源）へのあこがれは、誰もが抱いているのではないのでしょうか。身近なところを流れている川の最初の1滴はどこから始まるのだろうか？ その場所はどんな様子なんだろう？ 自分もそこまで行けるのだろうか？ そんな思いを写真と地図とで表現してみました。取り上げたのは、荒川、信濃川、笛吹川（この3本の川は甲武信岳が分水嶺になっています）、利根川、多摩川、そして外秩父山地から関東平野に向かって流れ出る入間川、高麗川、越辺川、都幾川、槻川です。

2 荒川の源流

甲武信岳（甲武信ヶ岳、標高2475m）への登山ルートは何本もありますが、最短は長野県側の川上村からつけられている道です。高原野菜の畑が広がる中を毛木平^{もうきだい}まで車で行き、そこから千曲川源流部の溪流に沿って高度を稼ぎます。途中の原生林の中で出会うのが「千曲川・信濃川水源地標」と書かれた大きな標柱。登山道のわきから湧き出る水は、日本一の大河信濃川の始まりです。

荒川の源流に行くには、沢を遡るのは危険なため、甲武信岳の山頂直下にある甲武信小屋から谷を降りていくことになります。私が初めてここを訪れたのは30年以上も前のこと。倒木をまたぎ、厚い苔に足をとられながら下ったものですが、その後、山小屋の管理人さんが道をこしらえてくれたので、20分ほどで着けるようになりました。

針葉樹の原生林に囲まれた源流には「荒川源流点」の石標。県が実施した荒川総合調査の一環として1986年に甲武信小屋の敷地内にある「荒川水源の碑」と一緒に建てたものです。山上で行われた建立記念式典には私も手伝いに動員されていたのですが、足の怪我で入院していたため、立ち会うことができませんでした。

荒川の場合、水の湧き出し口は季節によって変わります。源流点は渇水期でも水の見られる地点としたため、通常はここより上流にも水があるこ



苔に包まれた荒川源流

とが多いようです（写真）。

ただし、荒川の長さ173kmの始まりは源流点ではありません。ここより8kmほど下流に「荒川起点」の碑があり、そこが河川管理上の起点であるとともに、長さの起点にもなっています。起点に行くには、川沿いの平坦な道（かつて材木を運んだトロッコ道です）を1時間半ほど歩けば行き着くことができます。

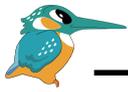
3 入間川の源流

入間川は荒川最大の支流で、上流は名栗川と呼ばれています。名郷^{なごう}バス停で下車して、妻坂峠^{つまさかとうげ}方面に向かう林道を行くと、妻坂入^{つまさかいり}と横倉入^{よこくらいり}（入とは谷のこと）の合流点に「入間川起点」の碑が立っています（写真）。



起点碑の後ろのに砂防堰堤から落ちる水が見える

源流へは横倉入の林道を進みます。車止めから先は大持山へのハイキングコースを左に見送り、道のない谷筋をひたすら登って行きます。谷川の水はやがて潤れますが、そのまま谷底を直進すると、やがて再び少しずつ水が現れてきます。



歩き始めて1時間半。足場の悪い斜面をはい上がり、かすかな水音に導かれていくと、そこは大持山（標高1294m）の東斜面。落葉樹林の明るい谷が入間川の源流でした。

源流から先も道はありません。木々につかまりながら急斜面をよじ登ると、大持山から南に延びる稜線上の道に出ることができました。

4 高麗川の源流

国道299号に沿って、入間川（名栗川）とほぼ平行に流れている高麗川。その源流は、飯能市・ときがわ町境の刈場坂峠の南側斜面にあります。

最初に訪れたのは起点。正丸トンネルの入口手前で国道を右折してすぐの「子の神戸橋」が起点なのですが、起点の碑が見当たりません。近くの“一軒家”で尋ねてみると、「見た記憶があるよ」と一緒に探してくれたのですが、やはり見つかりません。あきらめて源流に向かうことにしました。

虚空蔵峠に向かう蛇行した林道を車で登って行くと、道のわきに「高麗川源流保全之碑」（写真）。そばを流れている高麗川は、まだ水量があります。沢沿いの山道を登ること10分。「高麗川源流之滝」の碑が目に入り、すぐ下に高さ1mほどの小さな滝がありました。



巨岩の上に立つ源流保全之碑

そこからさらに10分。流れはぐっと細くなり、折り重なった岩のすき間から最初の水が湧き出ていました。一帯は西川林業の本場のため、周囲はどこを向いてもスギ、スギ、スギ。湧き出し口の周りにも朽ちたスギの葉が散乱していて、若干期待はずれの源流探訪でした。

5 越辺川の源流

難読地名の越辺川。入間川の支流で、名前の由来は「越生の辺りを流れる川」のほか、アイヌ語説や古代朝鮮語説もあります。上流にある黒山三滝は江戸時代から行楽地として知られていました。

源流は、黒山三滝のある沢（三滝川）ではなく、さらに南に延びているのが本流です。三滝川が本流に合流する地点には「越辺川起点」の碑が立っています。本流に沿って車道を行くと、右手に「越辺川の源流」碑があり、本流はここで車道から別れてさらに奥に向かっていきます。沢筋を遡ることもできるようですが、今回は上流側の稜線から谷を下ってみました。

越生町と飯能市の境になっている山並みに、奥武蔵グリーンラインと呼ぶ車道が走っています。飯能市阿寺という小さな集落から、さらに細い車道を入ると、稜線の諏訪神社に行き着きます。

山上の神社にしては珍しいほどの広い境内。社殿と公衆トイレの間に、見落としてしまうほどの細い道が、谷に向かって下っています。赤いテープを目印に下ると水が現れますが、ここは源流の沢ではありません。さらに下ると左手から細い枝沢が流れ込んでいますが、これは無視（私はこの沢を登ってしまい、途中で気が付いて引き返した次第）。その先で左から流れ込んでいるのが本流筋です。

沢沿いに道はありません。足場を気にしながら遡って行くと、わずかな流れも消え、「越辺川の源流」と書かれた木標がありました。「越生町制100周年記念」とあるので、30年ほど前に建てられたもののようです。周囲はスギの林が広がり、林床はシダに覆われていました（写真）。

こんこんと湧き出る水。これが令和元年東日本台風で氾濫して大きな災害をもたらした越辺川の源流かと思うと、感慨深いものがありました。



この木標のすぐ下から湧き出ていました

※利根川、多摩川、都幾川、槻川の源流については、展示で紹介しています。

（研究交流部 大久根 茂）



不思議な「すみか」をつくる生きもの

夏休み期間中に開催された特別展「すみか」関連イベントにて、8月7日に井上大成氏（森林総合研究所 多摩森林科学園）、奥村みほ子氏（埼玉県立自然の博物館）を講師に迎え、「昆虫のすみかを探そう！」と題して観察会が実施されました。

観察会のターゲットは当館で見られる特徴のある「すみか」をつくる昆虫です。今回のコラムでは講師の井上先生イチ押し「ダイミョウセセリ」に注目しました。本種は比較的地味なチョウ、セセリチョウ科に属し、北海道南部から九州にかけ



写真1 ダイミョウセセリ幼虫の「すみか」

て日本国内各地に分布します。林縁部に多く、幼虫はつる植物のオニドコロやヤマノイモなどのヤマノイモ科の葉を食べて成長します。

当館の敷地の大半は河川敷ですが、南側には斜面林があり、雑木林が細長く敷地沿いに続いています。



写真3 ダイミョウセセリ成虫 関東型 川の博物館で撮影

斜面林沿いに食草のヤマノイモ科の植物がちらほら見られますが、本種の幼虫のすみかを見つけることができました。その特徴あるすみか(写真1)は葉の一部を蓋のように折り畳んで作り、成長とともに大きなすみかへ引っ越しします。成虫は黒地に白い紋様が入るシックな色彩で、黄緑色の葉に止まるとよく目立ちます。そして成虫は東日本・西日本で白い紋様の入り方が違います。たまたま島根県で撮影した写真があり(写真4)、当館で撮影された個体(写真3)との違いを比較してみました。

筆者は昆虫、特にチョウはあまり縁がありませんでしたが、当館にはたくさんの生きものが生息し、あまり知られていない不思議な生きものも見つかることを認識しました。当館の生きものについては今後展示等でも紹介したいと考えております。

(研究交流部 藤田宏之)



写真2 「昆虫のすみかを探そう！」観察会の様子



写真4 ダイミョウセセリ成虫 関西型 島根県出雲市で撮影



学芸員コラム

「堤内地」と「堤外地」

突然ですが、皆さんに質問です。「洪水から、私たちの生活を守ってくれているものと言えば、何を思い浮かべますか？」人によって思い浮かべるものは違うかと思いますが、「堤防」を思い浮かべた人も多いと思います。

例えば、荒川流域には、高く立派な堤防が整備されています（今現在も整備中ですが）、この堤防のおかげで、私たちの生活が守られているのはまぎれもない事実です。

このように、川の周囲には、堤防が整備され、その堤防によって洪水から守られている土地と、逆に守られていない土地、両方が存在することになります。そして、堤防に守られている土地のことを、日本語では「堤内地」と言い、守られていない土地のことを「堤外地」と言います。

この言葉、日本語の難しさが表れている言葉であり、漢字だけ見ると、「堤内地」＝「堤防の内

側の土地」と読むことができ、その場合は「川に近い方の土地」とついついイメージしてしまうのですが、実際は逆なのです。

ではなぜ、「内」と「外」、一見すると逆ではないかと思ってしまうような紛らわしい言葉使いになってしまったのでしょうか？その理由は、昔、川沿いにあった集落は、自分たちの村の周囲を堤防で囲い（輪中堤）、その堤防の「内」側で（堤防に守られて）暮らしていました。ここから、堤防に守られた土地のことを「堤内地」と呼ぶようになったとされています。

堤内地と堤外地。河川にまつわる様々な言葉1つにすぎませんが、川と向き合ってきた先人の苦勞や工夫が伝わる言葉の1つとして捉えることができるのではないかと思います。

（研究交流部 羽田武朗）

開催報告

かわはく体験教室 「ジュズダマであそぼう」

開催日：2021年9月4日

かわはくの敷地内を流れ、荒川に合流する宮川。昨年そこに、ジュズダマが生えているのを発見し、これを採集したものを材料にしました。

今年は、昨年より多くのジュズダマが宮川沿いに生育しました。9月は果期にはまだ早く、花を採取して講座室へ。花は緑色で目立ちませんが、黄色いおしべと、白いめしべをヒントに、見分けます。雄花（雄性小穂）は穂のように垂れ下がり、雌花（雌性小穂）は緑色のつぼの中にあります。このつぼは、葉が変形したもので、後に熟した果実を包み込む硬い殻となります。よく知るジュズダマの“実”は、この部分です。

観察の後は、ジュズダマの実でストラップづくり。ビーズと共に編み込むのが少し難しいようでしたけれど、思い思いの作品ができました。

大人には懐かしさを覚えるジュズダマですが、子どもたちにはあまり馴染みのないものようです。自然の中での遊びも忘れずにいたいですね。



ジュズダマの花



宮川沿いでジュズダマを採取

（研究交流部 三瓶ゆりか）

かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

2021

12月

18/土~28/火

連携展「荒川図画コンクール」

4/金~26/日

かわはくクリスマスイルミネーション

※夕刻より閉館まで

4/土

かわはく体験教室「和紙をつかった凧づくり」

時間：13：30～15：30 定員：16名 ☎

内容：伝統の小川和紙を使って凧（角凧）を作ります。

5/日

かわはくであそぼう・まなぼう「土でアート作品づくり」

時間：13：30～15：30

内容：12月5日は「世界土壌デー」。土の色をいかして作品を作ります。

12/日

かわはくで季節を楽しむ

「水引のクリスマスオーナメントづくり」

時間：10：00～14：00 定員：30名

内容：水引を使って、クリスマスオーナメントをつくります。

かわはく研究室「カタさ選手権」

時間：13：30～15：30

内容：身近なものの硬さを、モース硬度計を使って調べよう。

25/土

「子ども交流員」

時間：11：00～11：45 定員：各回10名 ☎

定員：かじかチーム（4歳～小1）3名、いわなチーム（小2～小6）5名

内容：かわはくの交流員のお仕事を体験してみよう！

お客様へのご案内や鉄砲塚の展示解説、工作のイベントなどを来館されたお客様の前で行います。

「館長と巡る！かわはくぐるっとツアー」

時間：13：00～14：30 ☎

内容：本館第1展示室を中心に、館長によるスペシャルな展示解説を行います。どなたも楽しい展示解説ツアーですよ。川越のおイモと狭山のお茶についてもお話しします。

26/日

モノづくりを楽しみながら学ぶ「ミニ門松作り」

時間：①10：30～12：00 ②12：30～14：00

③14：00～15：30 定員：各回10名 ☎

内容：お部屋に飾れる高さ30cm程のミニ門松を職人さんに教わりながら作ります。竹の磨き方その他、付属するミニ壺、飾りの水引についての話などを聞きながら職人さんと一緒に作ります。

2月

5/土

かわはく体験教室「荒川の石図鑑づくり」

時間：13：30～15：30

定員：20名 ☎

内容：荒川のかわせみ河原で石を集めて、石の実物標本

図鑑を作ります。

6/日

季節を楽しむ「春を飾りましょう お雛様づくり」

時間：10：00～14：00

定員：30名

内容：桃の節句に合わせて、ソフト粘土でお雛様を作ります。

12/土

モノづくりを楽しみながら学ぶ

「新エネルギーで走るミニカーづくり」

時間：①10：00～ ②11：30～ ③13：30～（各回60分程度）

定員：各回10名 ☎

内容：マグネシウムと酸素と塩水で走る手のひらサイズのミニカー

を作ります。

13/日

モノづくりを楽しみながら学ぶ「AM・FMラジオづくり」

時間：①10：00～ ②11：30～ ③13：30～（各回60分程度）

定員：各回10名 ☎

内容：防災に役立つラジオを作ります。

20/日

かわはく研究室「川にはたらき・地形・歴史を学ぼう」

時間：①10：00～11：00 ②11：00～12：00

③13：30～14：30 ④14：30～15：30

定員：随時5名程度受付

内容：学芸員と一緒にかわはく周辺の地形や川のはたらき、荒

川の歴史等について学びます。学習する内容は参加者の

皆さんに選んでいただきます。

2022

1月

1/15/土~3/6/日

冬期企画展「埼玉県の災害伝承碑」

4/火

かわはくで季節を楽しむ「干支飾りづくり～トラ・と～ら～」

時間：10：00～14：00 定員：30名

内容：羊毛フェルトを使って、2022年の干支のトラのぬいぐるみを作ります。

5/水

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月あそび」

時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00

内容：はねつきやコマ回しなど、お正月の伝統遊びを体験できます。

9/日

かわはくで季節を楽しむ「願いをかなえて！張り子ダルマづくり」

時間：10：00～14：00 定員：30名

内容：手漉きの和紙を型に貼って、オリジナルのダルマを作ります。

15/土

かわはく体験教室「小さな貝の化石を探そう」

時間：13：30～15：30 定員：20名 ☎

内容：砂の中に混ざっている貝の化石を探します。二枚貝やサンゴ

も見つかるかもしれません。

16/日

かわはく研究室「水車のエネルギー」

時間：13：30～15：30

内容：水車の動力の伝わり方について、模型を使って説明します。

29/土

「子ども交流員」

時間：時間：11：00～11：45 定員：10名 ☎

定員：かじかチーム（4歳～小1）3名、いわなチーム（小2～小6）5名

内容：かわはくの交流員のお仕事を体験してみよう！お客様へのご案内や鉄砲塚の展示解説、工作のイベントなどを来館されたお客様の前で行います。

「館長と巡る！かわはくぐるっとツアー」

時間：13：30～14：30 ☎

内容：本館第1展示室を中心に、館長によるスペシャルな展示解説を行います。どなたも楽しい展示解説ツアーですよ。川越のおイモと狭山のお茶についてもお話しします。

30/日

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでまめまき」

時間：①11：00～ ②14：00～

内容：ワークショップでマスをつくり、リバーホールでまめまきをします。

※①②はまめまきの時間です。

3月

3/19/日~6/19/日

春期企画展「ケイソウ（仮）」

9/水

荒川ゼミナールI

～川を知るウォーキング～「新河岸川を歩く2」

時間：10：00～16：00（予定）

定員：20名 ☎

内容：河川改修前後の新河岸川の流路や川越市寺尾地区

がなぜ水害にあいやすいのか、現地を歩きながら

学びます。

20/日

かわはく研究室「水の中の“も”ってなんだ？」

時間：13：30～15：30

内容：水の中の「も」や「こけ」とも呼ばれる藻類を顕微鏡で

観察します。

20/日・24/木

荒川ゼミナールII 川を知るウォーキング

「入間川を歩く3

～じつは台地の縁を流れていることを知ろう～」

時間：10：00～16：00（予定）

定員：20名 ☎

内容：入間川流域を歩くウォーキングイベントの第3弾として、

現在の入間川がじつは台地の縁を流れていることを現地

を歩きながら学びます。また併せて、入間川流域に残る

古い堤防（旧堤）の見学をします。

※24日（木）も20日（日）と同じ内容で開催します。

26/土

かわはく体験教室

「ケイソウのペーパークラフト」（兼企画展関連イベント）

時間：13：30～15：30

定員：15名 ☎

内容：ケイソウを顕微鏡で観察し、ペーパークラフトでケイソ

ウの模型を作ります。

27/日

かわはくであそぼう・まなぼう「液状化実験」

時間：13：30～15：30

内容：地盤の液状化の仕組みについて学びます。

ホームページでも紹介しています！

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。

彩の国
埼玉県

2021年7月24日発行

